前略　　[illegible]のお祝いを。

この夜の還暦祝いの会にご招待ありがとうございました。[illegible]の皆さんの温かい[illegible]様に感謝申し上げます。

私にとっては先の短い人生が終わるこの有難いパーティーは、Gut, Alles Gut終りよければすべてよしそんなことだと思っております。

お初お招待に Meine Herrn und Damen (od Dahen und Herrn) Glückwünsch zum sechzigsten Geburtstag. Von neue und langen Sie neues zweites Leben an. Ich wünsche Ihnen herzlich bei Gesundheit Tagtägliche inhaltliche Zeit zu verbringen und zwar Ehepaaren mit zusammen bis zum ewige ruhe stelle.

Ich danke für Einladung von Ihnen. ながらく独逸語を使わないでこのような人知りで行うと思っていた物が実は、これは気持ちであると思い増せ上ると言う事なの様な招待にちがいません。独逸語の挨拶が一分間でお事ると思いません。

（紳士淑女のみなさん　六十才の誕生日（還暦）おめでとうございます。今から新しい第二の人生が始まります。ところが使命で夫婦共永遠の安楽の場所（倍光国の）まで、日々充実した毎日を過ごされますことを祈念いたします。皆さんのご招待に感謝いたします）

私は能力の高い秋高生の授業には教科研究を欠かせません。zu lehren ist zu lernen（教えることは学ぶこと）です。その意味の込めた思いは秋高十二年間、私の現役時代の中で皆さんと共に教壇で生活したことに感謝をこめてのことばです。それをある人はソクラテスの無知の知と受けとったようです。なぜ数千年前の人のことばか私の教の接拶に登場するのか全くわかりません。博識の人は「後のことばを注釈し、それを聞き」とつけたかるが、それは全く idols of cave（洞窟の偶像）の事あの場合は私の心能力のある皆さんと教室でのことに感謝こそ前提。そうでなければ私の教壇の中にはみいんとなかったのです。

又秋高では校舎教師の仲間特に黒木純三先生は一日長私より一かも若い学科の出身でしたので大変影響をうけました。

久保・中野・江幡・佐々木諸先生と共に生徒出席者の事いいました。

平成五年妻を亡くしてから二十数年思い出の パンデラア（Pekulatis Wanderer）です。一人暮しです。佐々木さん、友達をつれ遊びに来て下さい待っています。

※ことばというそのはその時代背景があってのことです みなさんが先人のことばを引用するのはすばらしいことです。秋高生は十一年間の私の思いの感謝を込めて教えることはみじんもありません。秋高生は十一年間の私の思いの感謝を込めて教えることは学ぶこと（学ぶとは学ばせる）ということばは私は力強く心に残るつもりです。

No.3

高野で 何と 忘れません。この手紙も 文脈 滅裂です。
又 私の 強烈な 心情 そこの文には みられると思います
長く 人生 共 お 有り 致します
"乱筆 乱文 お ゆるして"
佐々木 高子 様

妻 死別 二十年の 時に うたった 短歌

1. 八十路越え 逢れ合い 偲び ふたつの 一人 永らう 生のたたずみ
2. 八十路越え 振り返り みれば 幽多し 歌の 巡礼 今 終り切る

(昇)

親 中 症にならぬよう
お体 大切に

お五さま